



# 補聴器

# 購入補助を

65歳以上の半数が難聴と言われています。厚生労働省は、7つの認知症「危険因子」を指摘していますが、その中には「加齢」や「遺伝性」のほか、「難聴」も含まれています。WHOも中等度の難聴(40db以上)から補聴器の使用を推奨していますが、補聴器は高額であるのに日本では公的な補助が受けられないことが多く、普及が進んでいません。

## 徐々に広がっている補助の制度

私はこれまで補聴器の問題を一般質問で3回とりあげてきました。18歳以上の難聴者への支援を行っていない青梅市ですが、市長は、これまで「他自治体の動向を注視してまいりたい」と述べてきました。その「他自治体」で、補助制度を創設する動きが広がっているのです。

昨年の質問の際は、都内で補助制度があるのは23区で9区、市町村は0でしたが、現在では17区1市(三鷹市)1村(利島村)にまで広がっています(来年度実施も含む)。さらに、日野市でも昨年9月議会で請願が採択され、市長が23年度から補助制度を立ち上げると表明しています。

青梅市でも1日も早く、制度をつくることに踏み出すべきです

## 検診の際に聴力検査も

補聴器の普及を促進するためには、市民が聴力の衰えをきちんと**把握する機会**があることも大事です。

議会では特定検診や高齢者の検診の項目に「聴力検査」も入れることを提案しました。市長は「特定検診はメタボリックシンドロームに着目した検診」「後期高齢者医療健康診査の検査項目は、特定健診に準じて」と冷たい態度でしたが、せっかくの検診の機会を活かして**認知症予防**もできるはず

です。  
**西東京市**では、医師会が市の検診時に認知症検診と聴力検査を行い、認知症予防には、補聴器使用が効果のあることを示唆しているとのこと。



青梅市議会議員

## 藤野ひろえ

日本共産党青梅市議団

2022年10月・11月

市議会報告

暮らしの相談、法律相談(要予約)は、お気軽にどうぞ!

「近所の空き家が雑草だらけで困っている」「相続の手続きがどうしたらいいのかわからない」など、何でも相談ご連絡ください。

連絡先 090-4003-9987



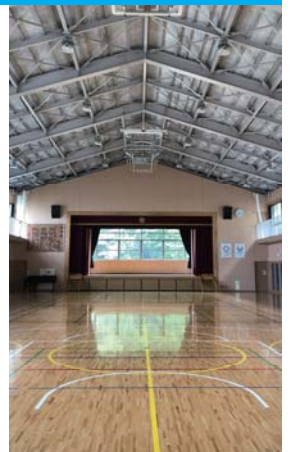
## 学校体育館に小中 全校

# エアコン

## 来年度までに設置されます

かねて要望してきた学校体育館のエアコン設置が、今年度と来年度で実施される方針が示され、9月議会では、まず今年度に中学校全校(10校)への設置の予算が可決されました。

子どもや保護者、学校関係者の願いが実現し、よかったですと思います!災害時のためにも重要です。



7年前に建て替えた第四小学校の体育館はとてもキレイですが、まだエアコンはついていません。



# 明星大学跡地購入方針は撤回を



青梅市は、昨年から「明星大学青梅キャンパスの跡地を取得する方針」を表明しています。しかし、その利用目的は定まらず、昨年はおもに「将来の公共施設の用地」としていましたが、今年になって「工業用地」「道の駅」「農業振興(キノコ栽培など)」も新たな利用案としました。

利用目的が決まっていないのなら、この方針は少なくとも一度撤回するべきです。

## 見通しがいい利用案ばかり



市が示した利用案は困難なものばかりです。公共施設の用地と言っても、多くの市民にとってあまりにも不便な場所であり、移転が適切な公共施設は見当たりません。

また、この跡地は「大学建設」を条件に開発が許可されたため、他の用途への転用には様々なハードルがあります。「工業用地化」や国の認定が必要な「道の駅」など、実現の見通しは持てません。取得すれば、売却することも困難です。

## 費用は不明

購入費は「交渉中」と示されていません。利用価値があれば数十億円の資産価値がある土地と建物ですが、大学が閉鎖されたままという経緯から低額や無償での譲渡も考えられます。しかし、建物の解体費(アスベストがなければ約10億円)、スポーツ施設の改修費、土砂災害対策などの維持費は不透明で、莫大な金額がかかることが予想されます。

市は、これまで公共施設を削減すると言って沢井・小曾木の地域保健福祉センターや釜の淵市民館、永山ふれあいセンターなどを閉鎖してきました。

それなのに今度は広大な土地と建物を買うというのは矛盾としか言いようがありません。

## 明星大学青梅キャンパス跡地とは

2015年に閉鎖された明星大学青梅キャンパスには、大学の講堂などがそのまま残されています(以下、跡地)。延べ床面積が3000㎡から6000㎡程度の校舎等が5棟、柔剣道場などを含む体育館、その他施設で建物の総床面積は約3万9000㎡です。

また、跡地には野球場1面、総合運動場1面、テニスコート6面があり、長測2・5・9丁目にまたがる総面積は山林を含めて約80万㎡と広大です。

参考 青梅市役所:約2万2000㎡  
旧東芝(現物流センター):約12万㎡

## 市の基金は100億円近くに 青梅市2021年度(令和3年度)決算

「きびしい財政状況」がロゴセのような青梅市ですが、いま連続の黒字で、市の基金は100億円近くに増えています。

その理由は、モーターボート事業が昨年1年間で52億円も儲かり、その半分を市財政に入れたこと、新型コロナ対策はほぼ国・都の補助金の範囲内で行わなかったこと、国から市への交付金も増えたことなどです。

このような理由で、昨年度決算では、市は積立金※を31

億円増やし95億円に、そのうえで年間13億円近い黒字となりました(モーターボート会計にも80億円の基金)。

「もっと市民生活を守る仕事のできたのでは」との観点から、日本共産党青梅市議団はこの昨年度決算には反対しました。このような基金を活かして、新型コロナの影響や、消費税の増税、医療・介護の負担増、物価高騰に苦しむ市民の生活を支える施策を推進することが急務です。

※財政調整基金と公共施設整備基金の合計です。